

平成 29 年 6 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成 29 年 2 月 1 日

上場会社名 株式会社インテリジェント ウェイブ
 コード番号 4847 URL <http://www.iwi.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井関 司

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 経営管理本部担当 (氏名) 垣東 充 TEL (03)6222-7015

四半期報告書提出予定日 平成 29 年 2 月 3 日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成 29 年 6 月期第 2 四半期の業績 (平成 28 年 7 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29 年 6 月期第 2 四半期	3,793	—	247	—	274	—	191	—
28 年 6 月期第 2 四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1 株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29 年 6 月期第 2 四半期	7.27	—
28 年 6 月期第 2 四半期	—	—

(注) 平成 28 年 6 月期第 2 四半期は、連結財務諸表を作成していたため、前年同四半期実績及び増減率については記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29 年 6 月期第 2 四半期	7,629	5,103	66.9
28 年 6 月期	6,944	5,013	72.2

(参考) 自己資本 29 年 6 月期第 2 四半期 5,103 百万円 28 年 6 月期 5,013 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28 年 6 月期	—	0.00	—	6.00	6.00
29 年 6 月期	—	0.00	—	—	—
29 年 6 月期 (予想)	—	—	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成 29 年 6 月期の業績予想 (平成 28 年 7 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	8,000	11.0	800	9.3	800	6.6	550	7.2	20.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年6月期2Q	26,340,000株	28年6月期	26,340,000株
② 期末自己株式数	29年6月期2Q	—株	28年6月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年6月期2Q	26,340,000株	28年6月期2Q	26,340,000株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。なお、上記予想に関する事項は【添付資料】P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

平成 29 年 6 月期第 2 四半期の国内景気は、緩やかな回復を続けており、企業収益は高水準で推移し、業況感も改善するなか設備投資も増加基調にあるといわれています。個人消費も底堅く推移しており、国内経済の先行きは、回復から緩やかな拡大へ転じていくと考えられています。

好調な国内経済情勢を背景にして、当社の主要な事業領域である金融業界、クレジットカード業界においてもシステム開発を中心とした設備投資の件数は増加しており、当社の事業機会も拡大しています。

新規の設備投資案件やシステムの統合、更新のほか、訪日外国人客の急速な増加と 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控えて、キャッシュレス決済の推進と決済手段の多様化に対応する設備投資案件も増加しており、こうした情勢は今後も続くものとみられます。

また、政府機関や企業に対するサイバー攻撃の件数が著しく増加するなか、サイバーセキュリティ対策の商談も堅調に推移しており、国内の様々な業界の企業に対して拡大しています。当社は、こうした事業環境において積極的な事業活動に取り組んできました。

その結果、当第 2 四半期累計期間においては、売上高 3,793 百万円(前年同四半期比 26.6%増)、営業利益 247 百万円(前年同四半期比 22.3%増)、経常利益 274 百万円(前年同四半期比 27.4%増)、四半期純利益 191 百万円(前年同四半期比 31.7%増)と、いずれも前第 2 四半期連結累計期間実績を上回ることができました。

※当社は、第 1 四半期累計期間より連結財務諸表非作成会社となったため、非連結業績を開示しています。本決算短信 定性的情報に記載の前期業績と前年同期比は、平成 28 年 2 月 3 日付けで開示した平成 28 年 6 月期 第 2 四半期決算短信(連結)業績数値によって表示、比較されていますのでご注意ください。

【ご参考】

平成 28 年 6 月期第 2 四半期の連結業績 (平成 27 年 7 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日)

連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28 年 6 月期第 2 四半期	2,996	5.3	202	10.3	215	17.3	145	△40.6

平成28年 6 月期第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 7 月 1 日 至 平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	金融システムソリューション事業	プロダクトソリューション事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	2,619,209	376,907	2,996,117	2,996,117
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	2,619,209	376,907	2,996,117	2,996,117
セグメント利益又は損失(△)	204,660	△2,092	202,568	202,568

当第 2 四半期累計期間における各セグメント別の状況は以下のとおりです。

(金融システムソリューション事業)

金融システムソリューション事業においては、クレジットカード会社や銀行、大手システム開発会社等の企業を主な顧客として、クレジットカードやデビットカード、プリペイドカード等による決済や、ATM(現金自動預払い機)を利用した現金取引を完遂するためのシステム開発業務を行っており、これらのシステムは、カードネットワーク間を接続して取引データの受渡しを行う機能や、カードの使用認証、不正な利用の検知等の機能を顧客企業に提供しています。

決済に係る取引データを取扱うシステムは、高速で間違いのない処理を実現する機能と性能が要求されます。当社は、こうしたシステム開発の技術を活かして、証券会社を顧客として、証券取引に使われる様々なデータの大量超高速処理のためのシステム開発も行っています。

当第2四半期累計期間においては、キャッシュレス決済の推進と様々な決済手段に対応するシステム開発案件に加えて、安全、安心な決済のためのセキュリティ対策を向上させるシステム投資の引き合いも増加しており、当社の事業機会は拡大しています。

当社にとって好ましい事業環境のもと、スマートフォンを利用したカード決済や、カードブランドの統合によるシステム開発の案件によって、売上高は期初予想 2,920 百万円を超えて成長し、3,312 百万円(前年同四半期比 26.5%増)、営業利益は 216 百万円(前年同四半期比 5.9%増)と、業績を伸ばすことができました。

カテゴリ別の実績として、ソフトウェア開発業務の売上高が、2,155 百万円(前年同四半期比 27.4%増)と伸びたため、システム開発に供用される当社製品の販売や、サーバー等のハードウェアの販売も前期の実績を上回りました。特に、決済のためのネットワーク接続機能を提供する当社製品 OnCore (オンコア) の販売が順調に推移しました。

営業利益については、当第2四半期累計期間の営業利益は 216 百万円と、前期実績 202 百万円を上回りましたが、第1四半期において、システム開発の不採算案件に係る損失を 38 百万円計上したため、期初予想 250 百万円を下回る実績となりました。

カテゴリ別売上高実績 (百万円)

	前第2四半期 連結累計期間実績	当第2四半期 累計期間実績
ソフトウェア開発	1,691	2,155
保守	393	442
ハードウェア	230	451
当社製パッケージソフトウェア	82	171
他社製パッケージソフトウェア	221	90
計	2,619	3,312

(プロダクトソリューション事業)

プロダクトソリューション事業においては、当社製の情報セキュリティ対策と他社製のサイバーセキュリティ対策のためのパッケージソフトウェアを販売しています。

当社は、企業を顧客として、顧客の業務に使用される PC 端末 (エンドポイント) のセキュリティ対策製品を取扱うことを主な事業領域としています。

当第2四半期累計期間においては、内部情報漏えい対策の当社製品 CWAT (シーワット) の販売に加え、標的型攻撃等のサイバー攻撃を防ぐための対策製品 Traps (トラップス、米国パロアルトネットワークス社) の販売が増加したため、当第2四半期累計期間の売上高は 481 百万円 (前年同四半期比 27.9%増)、営業利益は 31 百万円 (前年同四半期は 2 百万円の営業損失) と、前期実績を上回りました。

カテゴリ別売上高実績 (百万円)

	前第2四半期 連結累計期間実績	当第2四半期 累計期間実績
ソフトウェア開発	43	38
保守	59	66
ハードウェア	—	3
当社製パッケージソフトウェア	83	87
他社製パッケージソフトウェア	190	284
計	376	481

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末に比べ685百万円増加し、7,629百万円

となりました。うち流動資産は、前事業年度末に比べ88百万円増加し、4,770百万円となりました。これは主に、現金及び預金215百万円の減少がありましたが、たな卸資産253百万円の増加があったためです。固定資産は、前事業年度末に比べ596百万円増加し、2,859百万円となりました。これは主に、無形固定資産の増加467百万円があったためです。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末に比べ595百万円増加し、2,526百万円となりました。これは主に、未払法人税等65百万円の減少がありましたが、支払手形及び買掛金203百万円の増加並びに流動負債その他の前受金474百万円の増加があったためです。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末より89百万円増加し、5,103百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金56百万円の増加並びに利益剰余金33百万円の増加があったためです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物は、2,537百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、602百万円の収入となりました。これは主に、税引前四半期純利益274百万円、売上債権の減少額529百万円があったものの、法人税等の支払額130百万円があったためです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、644百万円の支出となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出601百万円があったためです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、175百万円の支出となりました。これは主に、配当金の支払額157百万円があったためです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年1月25日付け「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表した業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年6月30日)	当第2四半期会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,852,325	2,637,305
受取手形及び売掛金	1,291,967	1,236,665
たな卸資産	264,280	517,987
その他	273,208	378,612
流動資産合計	4,681,781	4,770,570
固定資産		
有形固定資産	400,661	419,717
無形固定資産		
ソフトウェア	267,729	959,091
その他	297,595	73,953
無形固定資産合計	565,325	1,033,044
投資その他の資産		
投資有価証券	761,701	843,370
その他	622,980	624,854
貸倒引当金	△88,075	△61,629
投資その他の資産合計	1,296,607	1,406,595
固定資産合計	2,262,593	2,859,358
資産合計	6,944,375	7,629,928
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	363,354	567,036
未払法人税等	143,707	78,647
賞与引当金	223,640	186,990
役員賞与引当金	27,400	14,107
受注損失引当金	—	6,561
資産除去債務	—	7,744
その他	614,491	1,099,130
流動負債合計	1,372,593	1,960,219
固定負債		
退職給付引当金	388,906	407,292
役員退職慰労引当金	15,697	16,872
資産除去債務	51,832	54,095
その他	101,691	87,857
固定負債合計	558,127	566,117
負債合計	1,930,721	2,526,337

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年6月30日)	当第2四半期会計期間 (平成28年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	843,750	843,750
資本剰余金	559,622	559,622
利益剰余金	3,436,101	3,469,672
株主資本合計	4,839,473	4,873,044
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	174,180	230,546
評価・換算差額等合計	174,180	230,546
純資産合計	5,013,654	5,103,591
負債純資産合計	6,944,375	7,629,928

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間(自平成28年7月1日至平成28年12月31日)
売上高	3,793,397
売上原価	2,879,540
売上総利益	913,856
販売費及び一般管理費	666,183
営業利益	247,673
営業外収益	
受取利息	528
受取配当金	573
為替差益	3,119
貸倒引当金戻入額	23,681
その他	1,660
営業外収益合計	29,563
営業外費用	
支払利息	331
コミットメントフィー	2,169
その他	11
営業外費用合計	2,512
経常利益	274,724
特別利益	—
特別損失	
固定資産除却損	3
特別損失合計	3
税引前四半期純利益	274,720
法人税、住民税及び事業税	61,614
法人税等調整額	21,494
法人税等合計	83,109
四半期純利益	191,611

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期累計期間(自平成28年7月1日至平成28年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	274,720
減価償却費	140,031
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△26,445
賞与引当金の増減額(△は減少)	△36,649
受注損失引当金の増減額(△は減少)	6,561
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△13,292
退職給付引当金の増減額(△は減少)	18,385
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	1,175
受取利息及び受取配当金	△1,102
支払利息	331
コミットメントフィー	2,169
固定資産除却損	3
売上債権の増減額(△は増加)	529,505
たな卸資産の増減額(△は増加)	△253,706
仕入債務の増減額(△は減少)	98,333
その他	△5,837
小計	734,183
利息及び配当金の受取額	1,100
利息の支払額	△306
コミットメントフィーの支払額	△2,259
法人税等の支払額	△130,061
営業活動によるキャッシュ・フロー	602,656
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△33,734
無形固定資産の取得による支出	△601,535
投資有価証券の取得による支出	△636
貸付金の回収による収入	27,543
その他	△36,600
投資活動によるキャッシュ・フロー	△644,963
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	400,000
短期借入金の返済による支出	△400,000
リース債務の返済による支出	△17,896
配当金の支払額	△157,650
財務活動によるキャッシュ・フロー	△175,547
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,835
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△215,019
現金及び現金同等物の期首残高	2,752,325
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,537,305

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期累計期間(自 平成28年7月1日 至 平成28年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 当第2四半期累計期間(自 平成28年7月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	金融システム ソリューション事業	プロダクト ソリューション事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	3,312,029	481,367	3,793,397	3,793,397
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	3,312,029	481,367	3,793,397	3,793,397
セグメント利益	216,333	31,339	247,673	247,673

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

セグメント利益の金額の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しているため、差異調整は行っていない。